

# an Adventure on the Table

A Soldier of Patriotism vol. 1



卓上冒険譚  
憂國の戦士 壱

はじめのご挨拶  
-架空世界の冒険-

Tabletop Role Playing Game のゲームプレイ内容を録音し、原稿起こしをしたものが本書です。

時系列に掲載するものです。プレイの中の日々の流れをだらだら〜っと、書いております。

Ruleは、Dungeons & Dragons(TM) 新和版、電撃文庫版を使用。世界設定はいろいろなものを寄せ集めておりますが〜。一他originalってことにしておいてください。

(;^\_ ^A 誤字脱字は大変多いです。

ただひたすら必死に打ち込んでいます。

指摘はドンドンしていただいてません。

一他、若干の加筆をしておりますが、基本的には、プレイ内容そのままに過去の資料を整理して、掲載しております。

ご理解の程をお願いいたします。

<http://ddlog.cocolog-nifty.com/>

- 謝辞 -

落ち込んでいる時にやる気を起こさせてくれた  
後輩 おっくんとすばらしいタッチの表紙を描いてくれ  
た絵師 野田頭氏に、  
大変お世話になっている 本田師匠, ジャンボ氏,  
ツナ君、入院している時にお見舞いと激励メールをくだ  
さった方々に、さらに入院時に情け容赦ない医療事故漫  
画と日本酒漫画を差し入れしてきた某氏に  
社内E-missionの六川さんと  
長文のコメントをくれた嵯峨さんに  
その道の業界の仕事をしている岩田恵さんに  
中学からの腐れ縁というべき岩間くんは  
一朶プロになった大山口氏に  
(誤字脱字みつけ!と言われて思わず赤面)  
強烈なキャラクターコンセプトを提示していただいた  
小寿恵さんと書籍代金を物納(魚沼産コシヒカリ5kg)し  
てきた敦子さんに  
RPGサークル“アルテミス”の発起人の一人 吉田匠身氏  
ルールブックを提供してくれたMr. JMCC-MYさ  
んに  
学生時代からの腐れ縁の同僚いんとくんに  
忘れたころに、「続巻まだ?」と言った山本さんに  
厚く御礼申し上げます。

## -Prologue-

戦乱の続く混沌の時代

神がその威光を示し

眷属や妖精がつき従う

魑魅魍魎が跋扈し

呪いや魔法そして奇跡がまかり通る世界

人は、未だ生活のほとんどを自然に左右され、技術をもたず、未だ儂きものなり

かの地バルアは、戦乱が続く島々

トロンヘム王国歴<sup>3</sup>86年9月11日午後

北方の貧乏な寒村。フォーソン村

その村で懸賞がかけられていたオーク鬼達をぶちのめした勇者達は、領主の褒美を受けに証拠の品をぶら下げつつ帰還してきます。オーク鬼の頭部だったり～戦利品とか<sup>4</sup>さらに首領のオーガ鬼まで一匹ブチ倒して、えっちらおっちら帰還します。

負傷者もそれなりに続出しています。

レッシュ「オークが多くいた～のだ。」

トーエン「正義は、必ず～勝つ！」

歓待する住民。

しかし～その声には、元気がいま一つない。

トーエン「褒美をくれよ～。」

まだ、かなり太陽は高く～日没までは、もうちょっと時間がある。

領主 「よ～やった。祝宴の用意じゃ～。」

チェルシー「とりあえず～飲んでから～これからを考えよう。」

レッシュ「それって～最低。(T-T)」

領主は、クライブ・フォリオットである。

ささやかな、立食パーティである。

領主は乾杯の音頭をとる。

チェルシー、とりあえず、飲んで食べて元をとるぞと意気込むが料理の量がイマイチである。

チェルシー「このビール!ガツンとこないし～えらい薄いぞ。ファインピルスナー<sup>5</sup>どころじゃない。もっと～薄い。」

ふっと笑いながらトーエンは黙って飲んでいる。

チェルシーの辺りに遠慮のない発言に、周囲の農夫参加者は困り顔である。

チェルシー「もっと～うまい酒はないの～。」

とダダをこねる。

しかたなく酒はでて来るが～同じものばかり～。

チェルシー (T-T)

レッシュ「こんなに酒をだして来るとは～なかなかいい領主だ。」

愛想笑いの地元住民。

領主 「報酬はどうするかね。」

チェルシー「そりゃ～やっぱり!現ナマですよ。」<sup>6</sup>

引きつる領主の頬。その声で係のものが台帳とかひっくり返して、後ろでは大騒ぎになっていたりする。

領主 (；^\_^A

トーエン「アネゴがそう仰ってますからそのとおりに～。」

出納係 「みなさんもですか～。(；^\_^A」

レッシュ 「げ..現金がないの?」

領主 「君たち～。食費もかかると思うが～麦とかどうだ?」

チェルシー「しかし～麦だけでは～。」

領主 「なんなら～ソーセージ盛り合わせをつけよう。どうだ?」

チェルシー「なんなら～オークが多くいるところとか～。オーガがそれなりにいるところとか～。ありませんか?(よ～は、冒険者の仕事になりそうな～ご用はありませんか?ってことで～。)お金がガッポガッポ稼げる場所は、ないの?」

執事 「それを申しますなら～。ここよりさらに北方に参りますと、蛮族の居留地<sup>7</sup>などがございます。。」

チェルシー「お金がガッポガッポと儲かるような～。」

執事 「蛮族がお金をもっているか?はちとわかりませんが～」

レッシュ 「お金はなくとも～毛皮があるとか。」

執事 「蛮族の衣服はふつ～毛皮だと思いますが.....」

レッシュ 「それを取引すれば～ひともうけ。」

トーエン 「今の話を要約すると～アネゴは、素敵な宝石をほしいと申しております。」

領主 「(;^\_^A 宝飾品は、離山のドワーフ<sup>8</sup>にでも～買い付けに行けばよかろー。」

チェルシー「ええ～買うの～。」

レッシュ 爆笑

チェルシー「なんでしたら～お使いにいくこともいいですけどー。」

領主 「約束した分の報酬はあげよう。」

顔面引きつりっぱなし～。とたいそう中身のつまった革の袋を各人に一掴みずつ引き渡す。もらった袋の中身をテーブルの上にぶちまけて、貨幣の勘定をするチェルシー。

レッシュ (・\_・)え?

トーエン「アネゴですから〜。」

チェルシー「ほとんど〜銅貨(T-T)。金貨が5枚しかない  
〜。金貨30枚分はたしかにありますけど。  
しょうがないわねー。」

レッシュ (・\_・)え?

チェルシー「早く町にいきたい〜。(T-T)」

いらつく領主。革袋の大きさに膨らむ期待も、霧散しが  
つくり肩を落とす冒険者。

レッシュは無視してがつついて食べています。

チェルシー「食べるものを食べて、呑むものを飲んで〜  
とととと引き上げるよ。」

レッシュ「時は金成という言葉もありますから〜。」

食べる呑むスピードをさらにあげる。

レッシュ「僕らは!正義!だから〜負けない。」<sup>9</sup>

と言い切る。領民は、その言動と食べっぷりに勝廢に盛  
り上がる。そのざわめきの中で、

トーエン「この村は、なんか変です。」

チェルシー「なんで〜こんなに貧乏なんだ?現金がないん  
だ?」

レッシュ「たしか〜に、なんで〜こんなんに貧困なん  
だ?」

レッシュをからかいにガキども集まってくる。

ガキンチョ「ぼーさん!なんか〜くれよ〜。」



「なんか～ちゃうだい。」

と涙垂らし小僧が集まってくる。

レッシュ「我が教義 32頁第42項にこうある!働かざるものは、食うべからず!と～わかるか?」  
そんなことなんぞまったく聞く耳もたないガキどもである。

ガキども「いいな～。おじちゃんたち。いいな～。食べ物がいっぱいあっていいな～。」

レッシュ「我が教義には、こういう言葉もあります。  
『パンがなければ～お菓子をお食べ。』  
と。」

ガキども「どっちもなければ～どうするんだよ～。」

ガキンチョ「つままないの～。」

ガキども「けち!ケチ!

ソーセージを一掴み子供たちに無言で渡す。

盛り上がる子供達。怒涛のごとく部屋をでていきます。

トーエン「なんで～この村は、こんなに食べ物がないの?」

チェルシー「食べ物は、あるでしょー。貧乏なだけです。」

領民「今年は、作物が不作でねー。」

トーエン「ふつーに不作?」

チェルシー「超常現象的な異常低温による不作?」

農民 「穀物がまったくの不作でねー。実はつけども～からっぽという状態なのですよ。」

トーエン 「ふつーに冷夏ってところか〜。」

レッシュ 「海面温度が高かったとか〜。」<sup>10</sup>

農民 「不作だったんだよ〜。それ以外のなんか〜わかるか?」

チェルシー 「そんな年もあるわよ。」

領主 「報酬の一部を麦に交換しないか?」と真顔で言われる。

とりあえず〜無視して、酒飲んで歓談している。

立食パーティとは、予算を安くあげて、廃短に切り上げるためのパーティである。それなりに量がある料理だが〜。中身的には、イマイチである。領主の部下はいろいろ酒を運んだり、皿を運んだり汚れ物を下げたりとアタフタと駆けずり回っていたりする。

トーエン 「ちょっと〜そこをいくメイドさん。」

と給仕係の少女を呼び止める。

メイド 「なんででしょうか?お実さま?」

トーエン 「当然!カチューシャの代わりに猫耳です。」

リクエストに答えて、猫耳にする少女。<sup>11</sup>

トーエン 「戦利品で申し訳ないのだが〜」

と指輪を差し出し、与える。

猫耳メイド o(\*^-^\*)o ポっ!

トーエン 「この村は、どうしてこんなにお金に困って

いるの?」

猫耳メイド「お金がないからです。不作で、当てにしていたお金がまったく入ってこなくてなってしまうからです。」

トーエン「現金収入がないってこと?」

猫耳メイド「唯一のお金に変えることができる作物が、すべて全滅という状況だったからです。夏の長瞿のせいだと思います。」

トーエン「じゃ～食べるものは?」

チェルシー「それを売れば?」

猫耳メイド「それよりも～オーガ鬼が大変だったのです。家畜と襲われ～田畑を耕す牛や馬まで襲われてしまっては、私たちには為す術もなかったのです。農産物を出荷しようにも、オーク鬼が邪魔してそれどころではなかったのです。」

レッシュ「それでは?どうしていたのだ。」

農民「護衛を雇うと折角の売上げも報酬に消えたり、大赤字というとんでもないことが続いていたのです。」<sup>12</sup>

レッシュ「それは～倒したほうがいいってことになる。」

適当に挨拶をして、領主の館を退出する。

トーエン「おかしい。小麦のほうが大事じゃ～ないの

か?」

レッシュ「交換したら、どうせ～中身が、スカスカの  
麦なんだろう。」

トーエン「雑穀をお金にかえても～たかがしてれてる  
し～。大赤字だな。」

今晚の宿屋を探す。雑貨屋が数軒しかない寒村。  
探しても結局は、宿屋は一軒しかない。

チェルシー「とりあえず～上等の部屋の個室を用意して  
よ～。(自分だけ)」

全部もらった銅貨で前金を払う。

一人個室できっとと寝てしまうチェルシー。

レッシュとトーエンの2人は、そのまま宿屋の食堂で飲  
み直す。

実が他にいないので、店主が相戻をしてくれます。

宿屋主人が安酒をだしてきます。

トーエン「どうだい。景気は?」

宿屋主人「この酒、仕入れているけど～水っぽくてな  
～。」<sup>13</sup>

レッシュ「なに?水割りかよ～。気づいた?」

トーエン「まったく～。」

レッシュ「だめだめじゃん。なんで?」

宿屋主人「そりゃ～ないからだよ。」

レッシュ「金が?」

水には困っていないのである。

トーエン「この村は、おかしい。実におかしい。」

宿屋主人「今年は～不作だったからねー。」<sup>14</sup>

トーエン「豊作・不作はいつものことなんじゃ～ないの？」

宿屋主人「不作がいつものことじゃ～ちとら～生きてはいけないって。しかし～今年の不作は、異常だよ。凶作だね。ここより北はもっと大変だね。」

レッシュ「酒は、ここで作っているの？」

宿屋主人「ま～ここいらで呑む分はね。」

レッシュ「材料がないから～薄くしているの？」

宿屋主人「醸造所は領主がもっているから～。(我等が加水をしているわけじゃ～ないのだ。)品質にクレームをつけることはできないのだ。」<sup>15</sup>

レッシュ「ってことは～領主は、ぼっていると～。」

宿屋主人「そういうことやろー。」

レッシュ「ぼっているのか～。」

レッシュは怒り心頭・血圧上がりまくり～。奇声を発する。

宿屋主人「今年は、すでに出荷制限までしているし～。」

レッシュは怒り心頭・血圧上がりまくり～。奇声を発する。

宿屋主人「だから～。安い酒に水を混ぜるしかない。  
(T-T)」

トーエン「で、また聞きの話よりも～実際のところ、  
農家の方は、なんて言っているの？」

宿屋主人「農民は何も語らない。黙っているのだ。こ  
れも統制されているようなのだ。」

トーエン「怪しい～。実に怪しい。」

宿屋主人「大きな声では言えないが～(小さな声では聞  
こえません。)どんだけ不作なのか?って実  
体はよくわからんのだ。」

トーエン「この周りは畑ばかりでしょ。」

宿屋主人「そうだよ。芋は採れているのだが～。麦と  
か他のものはダメのやうだ。」

レッシュ「果物もだめと～。」

宿屋主人「あまり余計なことを言ってバレルと捕らえ  
られてしまうからな。ここだけの話にして  
おいてくれ～。牢屋にぶち込まれるで～お  
ら～もう言わないぞ。」

レッシュ「領主は、わるい人？」

宿屋主人「う～ん。最近、顔色わるいねえ～。そりゃ  
～もうどす黒いねえ～。」

一同爆笑。

トーエン「う～ん。水のように飲んでしまいそー。」

レッシュ「悪いのは領主？」

トーエン「違うな～。領主は懸命に仕事をしているだけだ。悪い奴は他にいるぞ。間違いない！そして～その上にいる奴は現金が必要なのだ。」

レッシュ「現金で上納しないとイケない？」

トーエン「でも～実は～不作じゃないとか？」

レッシュ「すごい想像力!!!」

トーエン「現金をかき集めて搾取しようとしている輩がいるだ。間違いない！」

変なものの添加されていて悪酔いしてゲロゲロゲーの2人であった。

店主は、付き合うフリをされていてただお茶を飲んでいるだけだったのです。結局～。チェルシー部屋の扉の前で、交代で番をしながら休む2人。結局～座ったまま、瞑想しているつもりが爆睡。夜は深けていきます。

## 9月12日朝

小鳥のさえずりとともに目が覚め、起きてくるチェルシー。身支度をすませて、部屋から出ようとするが、扉は、開かない。ごそごそやっていると準備をして、トーエンが扉を開けつつ

トーエン「洗面器とタオルにございます。」

どうやうやく一礼をする。

チェルシー「気がきくわねえ～。」

簡便な朝食をすませつつ

ベーコン、レタス、トマトにガビガビの黒パンとサワー  
クリーム。紅茶にジャムをぶっこんだ飲み物。温めた融  
けてるチーズ。とりあえず～腹に詰め込み宿屋を後にす  
る。宿屋主人は、にこやかに廢をふる。

えっちらおっちら 村を出ようと歩いていく。

それを追いかけるように

猫耳メイド「お待ちくださ～い。ダンナ様～。

o(\*^-^\*)o」

大きなずた袋を担いでおもいきりこっば恥ずかしい衣  
装で駆けてきます。

ドン引きの冒険者。(;^\_^A

レッシュ「なぬ～。嫁さんにしてしまったのか?(-\_-)」

と冷めた目でトーエン見る。

チェルシー「レッシュ!なんかあったの～。(-\_-)」と冷

めた目でトーエン見る。

トーエン「この村は、食うに困っているようだね。勝  
廢についてきても困るので～解決しよ  
う。」

猫耳メイド「ダンナ様～。o(\*^-^\*)o」

チェルシー「それも～どうかと思うが～。」

トーエン「ま～立ち話もなんですから～。あそこの農  
家まで行って、一息いれませんか?」

猫耳メイド「とつとこの村をでましょ～。ダンナ様～。



o(\*^-^\*)o」

トーエン「なんで？」

猫耳メイド「どこに行っても～。素性バレバレって言わなくても分かったろ～。(-\_-メ)コラァ。」

トーエン「猫耳だから～ばれるのであって～。犬耳にすれば～ばれない。」

猫耳メイド「なにが違うっていうんだよ～。(-.-")凸」

レッシュ「虎耳もいいらしい。」

猫耳メイド「あんた～ばか？」

農家を強襲。

返事がないので～ドカドカ入っていく。

トーエン 入り口の扉を蹴破り中に躍り込んだ。扉をすでに粉碎している。

トーエン「こんなところに～どこかのドアが～。」

農地に出かけているので～不在です。」とかかれた紙切れが風にふかれて～飛んで行きます。

トーエン「仕方がないので待たせてもらいましょ～。」

レッシュ「待つのかよ。(´ー´)／■ レツドカード」

猫耳メイド「ダンナ様～。早くこの村をでましょ～。

(T-T)」

トーエン「なんで？」

猫耳メイド「ここにはもう居たくないのですう～。

(T-T)」

チェルシー「何かつらいことでも～あったの？」

猫耳メイド「もう貧乏は、もう嫌なんですぅ～。みなさんお金持ちなんでしょ。」

レッシュ (；^\_^A

トーエン「たかだか～30ギルでお金持ちとは、いえない。」

猫耳メイド「もつと～お金持ちなんですかぁ～。

o(\*^-^\*)o」

貧乏からの脱却ができると拳を握りしめる。

もうちょっとでバラ色の人生と勝炭に妄想爆走中。

トーエン「とりあえず～持つとしやう。それまで～お茶しますか～。」

厨房に火をくべて、お湯を沸かし、お茶の準備をはじめ  
る猫耳メイドさん。当たりを勝炭に探して、お茶の葉っぱ  
を見つけてくる。

レッシュ「それって～住居不法侵入？」

もくもくとお茶の準備をしている。

トーエン「そりゃ～みんな同罪だ。」

お茶をいれつつ、配り始める。

チェルシー(他人の家を無断で寛いだのは～はじめてだ  
な～。と思いますが、口にはしません。)

縁側に出てきて～

トーエン「みんな働くなって大変だよねえ～。(しみじ

み)」と言いつつ

ずずずずず～～～っと、お茶をすする。

トーエン「なかなか戻ってきませんな～。昼休みとかないかな～。」

レッシュ「ありえない。ないと思うぞ。」

～1時間経過～

まったり～と、時は流れる。

荷車がゴロゴロと通りすぎる。

レッシュ「ば～しゃ～が～。ゴ～トゴ～ト。」と寂しく歌う。

レッシュの歌声を無視して、農作物の生育状況や実の感触なんぞをひよこ抜かない範囲で検分をしているチェルシー。

チェルシー「これ？芋の蔓菜なのか～。根なのか？よくわからんぞ～。おっと木の実は軽い。軽すぎる。」

レッシュ（；@\_@A..... ひたすら～考えている。

奇跡はおきないのか？魔法は使えないのか？原因は、なにかあるのか？所詮は、未熟者ゆえになんにも思いつかない。

レッシュ「あ～考えるの辞めた。」

トーエン「そうそう。メイドさん。名前は？」

猫耳メイド「エリーです。」

綺麗な衣装は、とつとと着替えて、ふつーの汚いいつも

の服装になっている。近所の貧農の村娘っ  
て感じです。

レッシュ「すばらしい〜。」

トーエン「昨日 あげた指輪気に入りましたか？」

指輪をはめてはいない。(しまっているようだ。)

と炭を見ると水仕事であかぎれ・肌荒れのする痛ましい  
炭である。

トーエン (働いている悪人ではなく貧乏な少女だと思  
った)

エリー (^-^;

トーエン「今年は、ほんとに天候が悪かったの？」

エリー「今年は、いつもの年とは、違って雲が低く  
垂れ込めて、シトシト瞞ばかりが続いてし  
まって〜。立ち枯れになる作物が多くて〜。  
(T-T)」

トーエン「しかし〜なんで〜領主はあんなに食料では  
なくて〜現金にこだわるの？」

エリー「それは〜、王様に税を納めないといけな  
いからでしょ。(´ー`)貧乏人は、数の内  
には、まったく〜入ってない。勝炭に死の  
うと知ったことではないって、ことしょ  
〜。」

レッシュ「そうか〜。すっかり忘れていた。王様いた  
んだねー。」

エリー (\*-\_-)／

トーエン 「悪の元凶をみつけたり〜。」

チェルシー 「どこの国もそんなもんよ〜。とりあえず〜  
ここを離れて町に行ってみたら？」

レッシュ 「この王様は、人望がある？」

トーエン 「いや〜それよりも天候があれなのに、税金  
が減らなかっただけでは？」

エリー 「税金って減ることがあるの？」

レッシュ 「減らせよ。って一喝!ってだめ？」

エリー (\*-\_-)／おいおい〜

レッシュ 「戦争をやっているとか〜しかけているわけ  
でもなし。王様が贅沢をしているとか  
〜。」

エリー 「貴方達勇者様が、この村に来るしばらく前  
に、北からの『食べ物くれ〜。』という  
団体様ご一行がきましたが〜。ここに余っ  
ている食料がないのを知るとそのまま都に  
向かっていかれましたけど〜。」

トーエン 「そうか〜都に向かったと〜。」

チェルシー 「歩いて3日は、かかるぞ。」

レッシュ 「その王様は、人望なさそーだ。(^-^;しかし  
〜ここに居てもどうしやうもないのでは？」

トーエン 「その王様が納める土地はどこに行っても同  
じだと思いますよ。」

エリー (\*-\_-) / おいおい

エリー 「その方たちは、都に向かったようすけど。」

トーエン 「いっしょについてくる?」

チェルシー 「都までは～いいんじゃないの? 都に向かったとて～。食料はちゃんと～あるの?」

エリー 「ここから出たことがないので～。わからないのですう～。 (T-T)。」

与田話では、收拾がつかないので～その場を離れる。村の雑貨屋で眼鏡のフレームだけを購入する。

トーエン 「何か足りないと思ったのだ。」

エリーに伊達眼鏡をさせて喜ぶ2人。

冷めるアネゴ。

エリーに伊達眼鏡を強要する。

レッシュ 「これで～大丈夫だ。」

エリー 「なにが～。 (-\_-)」

レッシュ 「好感度30%アップ。当社比です。」

エリー (\*-\_-) / おいおい

トーエン 「もう足りないものはないよね。」

エリー 「食料とか、飲料水とか...。」

レッシュ 「上等なカチューシャが当然必要でしょ。」

チェルシー 「猫耳があるので～。いいでしょ。」

エリー 「衣類はちゃんと～もってきているので～大丈夫です。」

傍らには大きな袋を担いでいる。

チェルシー「その服は売ってはだめよ。きっと後で貴方を助けてくれるから〜。」

エリー「助けるっていったいどんなことや?」(\*-\_-) /

チェルシー「じゃ〜都に出発だ〜。」

街道を荷馬車ががらがら〜〜と通りすぎる。

ほてほたと歩き始めます。当たりは元気のない作物ばかり、惚けている農民とか困っている呆然としたやつれた村民の見ながら半日かけて歩く

エリー 「ところで〜向かうのはいいのですが〜。一日で着くのでしょうか?」

ギョルギョルとレッシュの腹がなる。

トーエン 「しまった食料がない。大変だ〜帰ろう!」

チェルシー「バカすぎる。」

エリー (^-^;

半日かけて村まで戻ってくる。

宿屋主人が「千実万来 お実さま熱烈歓迎」の看板を掲げている。

宿屋主人 「いらっしゃいませ〜。」

トーエン 「至急!弁当三日分x人数分くれ!」

宿屋主人 「お泊まりには、ならないのですか?」

トーエン 「すぐに出かけるから〜。」

宿屋主人 「(絶句)もう夜ですよ。」と食い下がる。

チェルシー「そうだ。その通りだ。」

トーエン「なんてこった〜。」絶句する。

エリー「売なるばか？」

宿屋主人「じゃ〜ご宿泊ってことで〜。金貨三枚でよろしいでしょうか？」(^o^)

トーエン「ツインを2つ。お願いしたい。」

宿屋主人「実は、ツインのシングルでお使いになっていただけなのですが〜。」

びっくり仰天である。

エリー「売なるばか？」

宿屋主人「おれって商売下賤だもんな〜。」と自己嫌悪に陥る。

レッシュ「わが教義にはこうある『正直は徳』とな〜。」  
まったく慰めになっておりません。

宿屋主人「得になってないよ〜。」

個室にて〜

チェルシー「なんで〜猫耳メイドなのよ〜。」

エリー「殿方には、受けるとお〜聞いたので。」  
(^o^)

チェルシー「そりゃ〜極一部だ。」

エリー「こんなに受けるなんてえ〜。o(^o^)o」

チェルシー「じゃ〜問題ないよ。」

夜はふけていきます。



9月14日

朝から曇。ずぶ濡れの中、狩りに出発する。

エリー 「がんばってください。ご主人様。」

ほてほて出かけていくトーエンとレッシュ。

チェルシー「とっとと燃えそうなものを集めてきてよ  
～。

エリーは、出かけるが暫くして戻ってくる。

エリー 「枝とか集めてきましたが～みんな湿気って  
いて～(T-T)」

チェルシー「使えないねえ～。こりゃ～。」

エリー (T-T)

トーエンは、長時間出かけているが、カモシカを一頭仕  
留めて帰って来る。

チェルシー「大物だ。さっさと～血抜きをして～処置し  
ないとー。」

レッシュのことなどすっかり忘れて、処置して、肉を取り  
分けて薫製にしてなんとか保存できる食料にしようとする。  
下處すると10時間ぐらいですむのでしょうか？思  
案するも結局、燃料うまく確保できないことで断念す  
る。

キノコ取りに出かけるが、収穫は毒キノコとか笑いタケ  
とかばかり～

(T-T)のレッシュ。

9月15日小鬻

とりあえず～強行して移動することに～。

風邪をひくチェルシー。

エリー熱をだして崩れる。

チェルシー「強行軍がだたったか～。」

レッシュ「■○●▲×★!」と理解の不能の言葉を話し叫ぶ

祈祷のつもりである。当然、なんの効果もない。

エリー「冗談のつもり?」

9月16日小鬻

風邪ひいた奴の快気祝いである。

ただひたすら～肉の薫製をつくり、その後移動する。

9月17日曇天

とりあえず～移動。都の周辺には、難民キャンプの列が幾重にも並んでいる。

チェルシー「なんか～大変みたいねー。」

『食べ物よこせ～。』というプラカードを廃にした難民の怒号罵声が聞こえます。

都の城壁周辺と何度も小競り合いをしているのが見える。

暴言を吐きまくる難民。

有志による焚き出しや食料の配給もあるようだが～

「これっぽっち～。(悲鳴)」という声もしています。

その中をかき分けかき分け城門に進む。

番兵が難民を追い返しているのが見える。

番兵が難民と旅人や商人を一方的に選別している。

城門に向かう行列に気がつくと並んでいる一行だが～。

前にいる奴らは、ことごとく番兵に追い返されていく。

番兵 「君たち、税金を納めていない三等市民に市内に入る権利はない。ほら～帰った! 帰った!

レッシュ 「いやいや～我等は、違うのだ。」

チェルシー 「ふつ～の旅人なんですけどー。ちゃんと～お金も持っていますし～。なんとか～なんないの?」

番兵を威圧する。

番兵 「ちゃんとした～身形だな。」

とささっと通してくれません。

番兵 「何を申しておるのか? (-\_-) だめだ。だめだ。」

レッシュ 「そんなことでは～神のご加護はありませぬぞ～。」

番兵を威圧する。

番兵 「ちゃんとした～身形だな。」

とささっと通してくれます。

それに連れられてゾロゾロと入っていきますが～。

番兵 「ちょっと～待った。」

エリーのボロボロの格好に番兵がクレームをつける。

番兵 「きさま～三等市民だな。その身形では通すわけには、行かぬ。」

レッシュ 「その者は、我等の連れにございます。」

エリー 「旦那様！」

番兵 「なんだ～。さっさと～通れ！」

と市街地に入っていきます。

商店街の衣料品店へまっしぐら～。

レッシュ 「ウェディングドレス。」

エリー 「ばか？」

トーエン 「水着みたいな鎧にバスタードソードでしょ。」

エリー 「あの～これから冬に向かうのですが～。」

レッシュ 「ミッフィーの着ぐるみ～。」

エリー 「まったく動けないものを着せてど～しろと？」

レッシュ 「ヒラヒラのドレス～。それで歩かれてもねえ～。それで冒険者とは言えないでしょ。」

エリー 「ちょっとは～言動がまともです。」

レッシュ 「あの～メイドさんの服装は？」

トーエン 「あれは上流階級の服装だが～。上流の人は、着ないんだよね。」

エリー (涙)

トーエン 「あれは上流階級の人が買うかもしれない服装だが～。上流の人は、着ないんだよね。」

エリー (涙)

トーエン 「じゃ～その中流階級ぽい。その服を一式買うことにしよう。」

ということになる。

エリー 「服装だけ～中流階級。o(^-^)o」

レッシュ 「護身用の武器とか持っているでしょ。」

エリー 「とりあえず～短剣ぐらいは～……………」

トーエン 「やはり～メイドコスですから～。広刃の両  
　　廢剣ぐらいは～しよってもらわない  
　　と～。」

エリー (\*-\_-) / おいおい

トーエン 「掃除用のデッキブラシに実は、刀が仕込んであるとかあ～。」

エリー (\*-\_-) / おいおい

商人 「ふつーに仕込むでしたら～特注ですから～  
　　当然!割高ですよ。」

トーエン (絶句)

トーエン 「問題がある。このまま中流階級の服装で押し通すべきなのか?メイドコスで押し通すべきなのか?そこが問題だ?」

レッシュ 「なんなら～ゴスロリ?」

エリー (\*\_-) / おいおい

チェルシー 「メイドコスは、ここぞという時に着用して  
もらうことにしましょー。」

トーエン 「これから～敵の屋敷に忍び込む時とか～。  
洞窟に潜入する時とか～。というここぞつ  
て時ですね。」

レッシュ 「勝負服ですから～。」

エリー (\*\_-) / おいおい

チェルシー 「武器は、短剣だったよねー。」

トーエン 「だから～広刃の両廢劍ぐらいは～持っても  
らわないと～。前衛は、できません。」

エリー 「いきなり前衛だって～(T-T)」

トーエン 「セーラー服に大型ライフルとか～。」

レッシュ 「機関銃とかさ～。ガトリング砲とかさー。  
バズーカ砲とか～ヨーヨーとか。」

チェルシー 「ドレスアップは、完了。」

トーエン 「メイドコスに短剣では～さまにならない。」

チェルシー 「メイドコスには、斧よりはチェーンソーでし  
よ。」

レッシュ 「なにか～様になるものを持たせないと～。」

エリー 「眼帯ですか?」

レッシュ 「わかった～俺が金を出す。ハンドアックス  
x2だ。」

エリー 「両廬に廬斧ですか〜。(T-T)」

レッシュ 「かつこいい〜。萌え〜。」

エリー 「どこが〜。(T-T)」

チェルシー「宿屋を確保しやう。」

レッシュ 「二部屋で2ギルぐらいのところだ。」

商店街を回って、宿屋を確保する。

荷物を下ろして、居酒屋で一息いれることに

トーエン 「とりあえず〜酒だ〜。」

ショットグラスが4杯しか出てこない。

居酒屋店主「酒の出荷統制がかかっています〜。すみません。在庫が乏しくてですねえ〜。価格が釣り上がってましてねえ〜。ギリギリのところ〜がんばっているんですよ。」

トーエン 「いや〜城壁の向こうは大変だったよ。どうなったの?この國は〜。」

居酒屋店主「今年は〜不作でね〜。数日前までは〜難民も受け入れてはいたんだが〜。あまりにも急激に増えていてね。受け入れを辞めてしまったのだ。入り口を閉鎖してね。だったら〜よ〜きたね。」

トーエン 「我等は関係ないですから〜。難民じゃ〜ありませんから。」

チェルシー「旅人ですから〜。出すものをだしたら〜入れてくれるわ。」

トーエン「おいちゃんも大変だ〜。」

居酒屋店主「そう大変だよお〜。」

レッシュ「ここの王宮って豪勢なんですか〜。」

居酒屋店主「いや〜この國は、元から金があるとかって  
もんじゃ〜ないし〜。虚勢をはるなんてこ  
とはできない。」

トーエン「売なる貧乏？」

チェルシー「なら〜国外に逃げる？」

居酒屋店主「いや〜それもなかなかうまいこと行かない  
のだ。なんでも〜東に抜けて、山を越える  
ルートがあるのだが…。最近、魔物が出  
るとかで〜その交易ルートが使えなくな  
っているのだ。」

レッシュ「他のルートはないの？」

居酒屋店主「単方の諸国とは〜中が悪くてね。うまいこ  
と行ってないのだ。」

チェルシー「ならば〜個人としての売買ってのはどう？」

レッシュ「いわゆる〜キャラバン隊？」

居酒屋店主「それは〜誰がするの？資金はどうするの？」

チェルシー「それは〜そういう商人でしょ。」

言ってみただけで〜。やる気なし。

居酒屋店主「この界限は、とりあえず〜漁業がうまいこ  
といっているの〜。とりあえずの食料は  
なんとかなっているようだが。」



チェルシー「ここより北方は？」

居酒屋店主「北？こことあんまり変わらないか？もっとひどいかのどちらかだよ。」

レッシュ「ならば～東とは～交易をしていたってことかい？」

居酒屋店主「東とは～それなりに交易はあったのだが～。国境のところ～なんでも～最近、悪鬼が徘徊するようになったとかで～。取引もさっぱりだ～。」

レッシュ「交易商品って何？」

居酒屋店主「そりゃ～離山のドワーフの中継貿易。東方ではまず無理な身の締まった魚に蟹。農作物かな。むこうじゃ～へによへによの魚しかおらんと一ゆか～からな。」

レッシュ「そこで庶民が食べる農作物がだめになったと～。」

居酒屋店主「さらに北からは、難民が押し寄せてきているというわけだ。中継貿易を生業としていると～。ものの流れが途絶えてしまえば～。それはそれですべて終りということになる。」

レッシュ「悪鬼が悪いわけだ。」

居酒屋店主「なんでも～大勢の衛士を引き連れた商人とか探しにいった冒険者とか、ここ最近いろ

いろな奴らが出かけてはいくものの～誰も  
帰ってこなくてねー。」

レッシュ 『『冒険者求む』って求人がでていると?』

居酒屋店主「しかし～誰も戻ってこないからねー。募集  
はあるけど～。とうとう他募者かいなくな  
ったって噂だ。」

居酒屋の掲示板を見ていると王国の紋章入りの羊革紙に  
なにやら書いてあるものを見つけるチェルシー。

その紙には、

「誰もかえってこないじゃんか～。」

「とうちゃんを返せよ～。」とかなりの落書きがしてあ  
る。

チェルシー ( ; ^ \_ ^ A

トーエン 「誰もかえってこない?』

レッシュ 「負けたんじゃ～。」

トーエン 「そんなことはないさ～。プロの冒険者とし  
ては～それはあっちゃ～いけないことさ  
ー。」

レッシュ 「しかし～。」

トーエン 「誰も戻ってこない～そりゃ～おかしい～。  
乗ってみるか?』

レッシュ 「そりゃ～アネゴ次第でさ～。」

チェルシー「なんとなく～美味しい魚がたべたいな～。」

レッシュ 「食い気すか～。」抱腹絶倒

トーエン 「なるほど〜。」

居酒屋店主「魚がほしいなら〜明日の朝にでも〜市場に  
いっとくれ〜。(´-`)/」

チェルシー「あるなら〜別にいいや〜。ここで〜。」  
(ここに魚介類はまったくないと勘違いしていたよう  
だ。)

トーエン 「あねご〜どうしやす。」

チェルシー「明日の朝まで待ちます。」

レッシュ 「そうじゃ〜なくて〜。」

チェルシー「悪鬼の類はおいといて〜。なんとなく〜東  
に行ってみたい。」

隣の実 「悪鬼をものともしないんだ〜。(；^\_^A すん  
げえ〜。」

レッシュ 「アネゴのわがママが始まりやしたでえ〜。」

チェルシー「悪鬼にあわなきや〜いいんだけど。」

隣の実 「実力なしですかい。」

レッシュ 「また〜わけのわからんこだわりを言ってる  
しー(T-T)」

エリー 「食欲と後先考えない興味だけで〜行動して  
いる。」

トーエン 「だれも帰還しないってことは、ないってこ  
と?どんな罫があるのか?ってところか?」

チェルシー「この張り紙を王宮に持参して『行きます!』  
って言ったら〜廢当てぐらいは出して貰え

るんじゃ～ないの？」

レッシュ「アネゴ行きますか？」

チェルシー「いいねえ～。」

トーエン「ほんとに悪鬼なら～絶対に勝てない。無理！  
逃げ帰ることぐらいはできるでしょ。」

宇奈月 宇奈月

レッシュ「倒さなくてもいいんでしょ～。調査って名  
目でいいのでは？」

トーエン「チラシには、『求む！デーモンハンター』つ  
て書いてあるし～。」

レッシュ「倒さないといけないのでしょうか？」

トーエン「ハンターって書いてあるから～そりゃ～ま  
ずいでしょ？」

チェルシー「ハンターと名乗って、途中で帰ってくるの  
はアリでしょ。」

レッシュ「今までなかった情報も廃に入るし～OKでし  
よ～。」

チェルシー「それは～言わないお約束。」

レッシュ「帰ってこないと～情報は廃に入らないわけ  
だし～。しかし～倒してないと～報酬はな  
しとか～。」

チェルシー「命あつての～ものだね。っていうか～旅費  
ぐらいのお廃当ては、でるっしょ～。」

レッシュ「情報収集に徹する？」

トーエン「明日は、朝一番に市場に行って、新鮮な魚  
をgetする。」

チェルシー「食べる。」

大笑いして、イスから転げ落ちるレッシュ。

レッシュ「た...たしかに～。で～この張り紙の件は  
～。」

トーエン「それは～明日もあるでしょー。」

食事をして、疲れているので～とっとと就寝ってことになる。朝一番に市場に出かける。市場を見渡すも、まったく鮮魚を取引している様子はない。

レッシュ「ない～(T-T)」

チェルシー「ふつ～我等は、競りには参加できないし  
～。」

エリー「見てるだけえ～。」

仕方がないので、食堂へ

トーエン「今日のおすすめは？」

食堂店主「鱸かな。」

居酒屋店主が仕入れのついでに、隣で朝飯をくらって  
いたりする。(・\_・)え？

レッシュ「三色どんぶり～1つ。」

今までとは、考えられない新鮮な食事にありつき、みんな朝からガツガツ食らう。仕事人の食堂故、食事が終わると皆支払いをすませると次から次からへと人が入れ代わる。この食堂は、存在自体が場違いで、こんなとこ

ろで情報収集はバカだと皆が、気がつく。

レッシュ「町立てがうまかった〜。」

チェルシー「今日の半分は終わった。」

食堂店主「まだ〜朝ですよ。」

レッシュ「どうしやすー。」

食堂店主「まずは〜支払いね。」

支払いをすませて、店をでる。

昨日見かけた張り紙はあちらこちらに貼ってある。

チェルシー「この張り紙をもって〜王宮へ〜go!」

びりびり〜っとはがす。

仲卸の業者が仕事をしている脇をぬけて、王宮に出向く

が〜。王宮の大きな城門はきっちり閉まっている。

レッシュ「やっぱり〜。早すぎるのですよ。」

チェルシー「そんなら〜くだでもまくかね。」

くだらない話をえんえんしていると〜。

番兵達がゾロゾロと集まってきます。

番兵「きみたちこんなところで何をしているのお〜。」

チェルシー「私たちのやる気をご覧ください。」

はぎ取った羊革紙を扉に叩きつける。

番兵「まだ〜受付始まってないから〜。」

チェルシー「いったい何時から?」

とキツイ口調で言い放つ。

アタフタしている番兵。

温かい飲み物を準備してもってくる。

番兵 「ま～とりえず、これでも飲んで。」

ずずずずず～～～と飲んでいる。

トーエン 「しかしなんですな～。名うての冒険者達が  
ゾロゾロと行って誰も帰ってこないとは～。  
不思議とな話もあるもんですな～。」

レッシュ 「たしかに～。」

番兵 「なんでも～建物がウロウロしているらしく  
て～。そこに入った者は、出てこないとい  
う噂だ～。」

トーエン 「ハウルの動く城？」

レッシュ 「よくわかんねえ～。」

番兵 「こっちも～そういう報告しか受けていない  
ので～。それ以上は、無理だ。」

レッシュ 「よくわかんねえ～。」

番兵 「なんでも～話によると、傍まで近寄ると、  
その建物から射かけられるそうなので～近  
くにもいけないという話らしい。」

トーエン 「それは～冒険者ではなくて～攻城兵器のこ  
とでは？」

番兵 「いやいや～。そういう報告なのだ。突っ込  
んだことを聞かれても～小生は、また聴き  
の又聞きなので～それ以上は無理です。」

チェルシー「ならば～それを確認する為に行ってきまし  
よーか？」

番兵 「じゃ～がんばってきたら？」

チェルシー「がんばってくるから～前金ちやうだい！」

番兵 「そういう言われると～。わたしゃ～なんとも  
も言えないな～。払う立場にはない。」

レッシュ 「受付は？」

番兵 「そりゃ～待つしかないでしょー。」

トーエン 「この張り紙には、実は、報酬が書いてない。」

レッシュ 「山むこうの東側とは～もう交易ができていないってことじゃん。」

だらだら～と待っている。

暫くすると番兵だ扉をあけて、本日の仕事が始まる。

係官 「みなさん！おはようございます。！」

ラッパがなる。

エリーの後ろには、すでに人が並び始めている。

老人 「今日は、珍しくこんでいますなー。」

エリー (;^\_^A

番兵 「それでは～本日の業務を開始いたします。  
整列して～順番に入場してください。」

ゾロゾロ入っていく。

案内係官 「今日は、いったいどういうご用件で？」

チェルシー「この件です。」と張り紙を差し出す。

案内係官 「では～担当のものに代わります。」

と入れ代わりに係官がでてきます。



案内係官 「私が話を承りますが〜。」

チェルシー「やりたいんですけどー。」

担当係官 「やっていたけるのですか?悪鬼を成敗して  
いただけるのですか?」

チェルシー「前向きに善処する。」

担当係官 崩れ落ちる。

チェルシー「力のかぎりがんばってこようかなとおも  
います。」

トーエン 「成功報酬はいかほどですかな?」

担当係官 「ま〜一人当たり金貨300枚ほどですけど  
ー。」

エリー (☆\_☆)

トーエン 「ほんと〜に一人あたりでいいのか?」

レッシュ 「ま〜詳しい話でも〜。」

トーエン 「難民のみなさ〜ん。悪鬼を成敗しにいきま  
しょー。」

と王宮の中を虚しく絶叫が響く。

担当係官 ( ; ^ \_ ^ A

トーエン 「と云いふらしてもいいの?」

担当係官 「ダメです。君たち4人でやるからとわざわざ  
出向いたのでしょ。それでの報酬で  
す。」

レッシュ 「と〜とりあえずの情報をください。これっ  
ぽっちの情報では、なんとも〜。」

チェルシー「この羊革紙には～何も書いてありませんもの～。」

担当係官「近隣に被害を与えているのは、悪鬼が一匹いるらしい。それも～たいそう強いらしい。さらに上位魔法も使うらしい。」

トーエン「そりゃ～そうだろー。で、お名前は?」

担当係官「ストリンガーと申します。(\*^\_^\*)。」

トーエン「あんたの名前じゃ～なくてえ～。その悪鬼の名前は?」

担当係官「そりゃ～わからんてえ～。自己紹介してから、奇襲する奴がいますか?雷は投げつけるは～。火炎弾は降らす、矢も壁のように打って来る。そんな相處に名前を教えてください～。『はいそーですか～。』になると思いますか?」

レッシュ「じゃ～首がいいですか～。足がいいですか?全部だと～ちょっと重いので～。」

担当係官「倒せるものならば～やはり首でしょー。」

トーエン「角のきれっぱし～とか。」

担当係官「それでは～倒したという証明にはならないでしょー。鹿の角とかもってくるバカがいそうだし～。」

レッシュ「ま～とりあえず～証拠をもってくりゃ～いいわけですね。」

担当係官 「なんでも～足の生えている建物に住んで近隣を徘徊しているらしい。」

チェルシー「なんで～建物に足が生えているの？」

担当係官 「そういう建物なんでしょー。」

レッシュ 「前から住んでいたのですか？」

担当係官 「なにせ～ここ数カ月の間にどこからかやってきたようですし～。悪鬼に尋ねてみては、どうでしょー。」

チェルシー「へえ～へえ～。」

担当係官 「道なき道というか～。ケモノ道というか～。案内の者を雇って交易していたルート of 丁度真上に、引っ越しをしてきたらしいのだ。それで交易していたものが困っているということなのだ。」

レッシュ 「ってことは～倒さなくても、交易ルートが確保できれば～。それでいいと～。」

担当係官がうなってしまう。

チェルシー「安全で交易ルートが確保できれば～いいってことじゃないの？」

担当係官 「そうだな～。」

レッシュ 「それでも～報酬はちゃんと貰えるですよ  
ね。」

担当係官 「できたらのことだが～。認めよう。」

レッシュ 「ハードルは、ちょっと～下がったな。」

担当係官「噂ではあるが～。東の諸国が、その者を連れてきたんじゃないか?って話もあるようだ。」

チェルシー「悪い國だねえ～。」

レッシュ「我が國と敵対しているような國は、あるのですか?」

担当係官「今は、ないと思っている。」

レッシュ「交易ルートが止まることによって、儲ける奴は出てくるのでしょうか?」

担当係官「それは～下っ端の小職ではちょっと～わからん。」

チェルシー「それは～高度な政治的な内容だと～。」

トーエン「悪鬼は、人が苦しんでいるのを見て楽しいのでしょ～。」

レッシュ「この交易ルートが断たれるとこの國は、滅びると～。」

担当係官「ないない!ケモノ道1つで國が滅んでどうする。」

レッシュ「すいません。今の話は、なかったことに～。」

担当係官「とりあえず～。二週間分の水と食料を支給する。当座の資金として、一人当たり金貨5枚を支給。さらに今回の仕事に関する証明書を発行します。」

書類と物資を受け取ります。

簡売な説明を受ける。

レッシュ「ここから、兵士を派遣するってことは、考  
えなかったのですか？」

担当係官「どこにそんな余分な兵士がいるというので  
す？近衛と番兵以外には、皆無ですよ。今  
そんな状況ではないでしょー。」

トーエン「では～まいりませよー。」

と退出する。

レッシュ「もう物資の補給は、いいの？」

トーエン「もらったじゃん。」

チェルシー「盗賊ギルドを探す。」

審判「盗賊ギルドが『盗賊ギルド』って看板を出  
しているわけではないでしょー。」

ひたすら～東にテクテク歩いている。

トーエン「交易していたぐらいたし～。それなりに道  
は、ある戻しよー。」

テクテク歩いていく。天気とりあえず～晴れているの  
で～行けるところまで行こうということになる。残り物  
の鹿の肉もたべきってしまう。

翌朝 小鬻

レッシュ「風邪気味ですので～一息いれましょー。」

トーエン「狩りにでかける。」

チェルシー「むちゃは、しないということで～。」

レッシュとトーエンは近隣を探す。

暫くして、

チェルシー「お帰り～。」

レッシュ「見つかったのは～この毒々しい毒キノコぐ  
らい。」

トーエン「鹿とかは何も見当たらない。がっくし」  
と戻ってきます。

9月20日 翌朝 土砂降りの鬻 森の中です。

9月21日 翌朝 土砂降りの鬻

9月22日 曇り 東に進む

9月23日 晴れ

9月24日 晴れ

9月25日 晴れ 東へ進む

チェルシー「かなり進んだね。」

エリー「いえ!まったくさっぱりです。」

レッシュ「迷っているんじゃ～ないでしょーね。」

エリー「いえいえ～迷っていません。ちゃんと～進  
んでいます。」

## 26日 曇

トーエンは、狩りに

レッシュは、植物採取にでかけましたとき

2人ともすってんで帰還する。

風邪引いて熱っぽいレッシュはダウンしてしまう。

明るい内から、たき火をして、暖をとる。

## 27日 晴れ

森が開けたところに出てくるが、周囲には巨大な鳥 足  
跡が一行につ

いている。

チェルシー「これが～噂の～。(；^\_^A」

足跡を見ていると、折れた槍とか、割れた楯が散乱して  
おり、腐ったような異臭がどんどんひどくなってきます。

甲冑は、色が変わっていたり、ぐにやりとまがっています。  
さらに探している、炭化しているものが一部に纏  
まって見つかります。

チェルシー「これは～惨憺たるありさまですな～。」

トーエン「これでは～誰も帰ってこないかも～しれま  
せんな～。ロープを張って、そいつの足を  
ひっかけるってどう?」

エリー「このサイズで、その紐をどこに固定するの  
よ?引きずられるがおちでは?」

トーエン「ロープで足を縛ってしまえば～いいのだ。

そうしたら～こけるでしょ～。」

チェルシー「そんな丈夫なロープがあったら～いいねえ～。」

エリー 「わたいい～。そんなロープもってないですよ。」

チェルシー「真に受けないでいいから～。(.-.)凸」

レッシュ 「なんでやねえ～ん。」

チェルシー「敵が、気がついたら～もう戻遅れになる。」

レッシュ 「このまま、東にぬけてしまえば?そうしたら～現れるのでは?」

さらに東に向かって進んでいく。

暫くすると大きな足音と地響きがし始める。

エリー ( ; ^ \_ ^ A

レッシュ 「うえ～こっちにくるぞー。」

トーエン 「散開して隠れるんだ～。」

わらわらと茂みに隠れる。

藁葺きの小屋にそのまま巨大な鳥の足をつけたようなモノである。

その高さは、概ね10m程度。かなり高い。

一行の近くまでくると立ち止まる小屋。

小屋の扉をあけて、中から、スターウォーズの銀河皇帝のような顔の見えないフードをとっぷりかぶった奴が現れる。

なにやら～臭いを嗅いでいるようなしぐさです。



トーエン 「あれって～悪鬼か?魔法使いの間違いではないのか?」

レッシュ 「そんな気がするねえ～。」

打ってみようとかごそと準備を始めるトーエン。

チェルシー (絶句)

十字弓で射かけるトーエン。矢は勢いよく飛んで行くが、小屋の直前で弾かれてしまう。

トーエン (・\_・)え?

エリー 「魔術防壁?」

レッシュ 「こりゃ～勝てないぞ。」

小屋の中から、笑い声がする。

トーエン 「これじゃ～かなうわけがないよな～。(引きつった笑い)」

レッシュ 「こりゃ～コンクラーベだな。」

と話をしていると、鳥があちらこちらから集まってきます。

鳥 「カア～!カア～!カア～!カア～!」

周囲の木の枝に止まって、チェルシー達を見下ろしています。

エリー 「私たちがくたばってしまうのを～待っているよ～なあ～。(T-T)」

チェルシー 「狙ってるウ～。」

マントを出して、頭から被ってしまう。

チェルシー 「糞除けです。」

エリー(-\_-)

鳥 「バカア～！バカア～！バカア～！バカア～！」

矢に布切れをまき、油をしみこませて火をつけて  
再び狙いを定めるトーエン。

矢は勢いよく飛んで行くが、小屋の直前で弾かれてしま  
う。

トーエン (・\_・)え？

エリー 「魔術防壁？」

下草に引火して、燃え広がっていきます。

ボーボーボーボボと火が燃えています。

トーエン 「燃えているから～ま～いいか。」

エリー 「それって、投げ槍だあ～。(T-T)」

今まで聞いたことがない悲鳴。

突然 小屋暴走し始める。

いきなり小屋が視界から消えてしまう。

ドタドタドタドタと足音。さらに

チェルシー (・\_・)え？

ババヤガ 「おっと～あぶねえ～。」

トーエン 「いけ～追い打ちだあ～。」と

矢に布切れをまき、油をしみこませて火をつけて再び狙  
いを定めるトーエン。矢は勢いよく飛んで行くが、小屋  
の直前で弾かれてしまう。足元に火が広がっていく。

ドタドタドタドタと逃げていく。

トーエン 「にやり。」

レッシュ「まともに戦ったら～勝てない。」

烏は、逃げていく。

トーエン「火炎陣で包囲すれば～動きを封じることができると思う。」

チェルシー「果たして～1つなのか?追いかけてみやう。」

トーエン「そのまま、東へ向かうのだ。」

逃げ去った小屋のことを全部放り投げて、そのまままっすぐ～

東に進んでいく。

歩こう!歩こう!あつる・こ・う!

再び森に分け入りドンドン進んでいく。

ドンドン進んでいく。

いく戻のむこうからいく筋も煙が立ち上っているのが見える。

トーエン「なんだろー。」

チェルシー 木に登って、見下ろすと

オーク鬼の集落が散財しているのが見えます。

木から降りて、状況を説明する。

チェルシー「あばら屋が**20棟**ってことは、それだけ**100匹**ぐらいはいるのでは?」

トーエン「そのうち～戦闘要員が半分とみても～**50匹!**それでは～勝負にならない。」

チェルシー「迂回しよう。」

遠回りしつつ、ほてほて東に向かう。

9月28日 天気 曇

チェルシー 風邪引いてしまう。

レッシュがチェルシーを担いで、土砂降りの曇の中を強行移動。体は、冷えきってしまう。

9月29日 天気 曇り

さらに東に向かって歩いていると、北側からいく筋もの煙が上がっているが見えます。

トーエン「また!オーク鬼の居留地があるし、前のと規模は同じくらいかな。今度は、櫓も見えるぞ。」

レッシュ「オーク鬼ってこんなに前からいたの?」

トーエン「それはないよ～。だって前は、交易をしていたんだもの。」

レッシュ「そうか!」

トーエン「安全だったとしても～オーク鬼の集落はないだろ～。」

レッシュ「なんで～急に増えたの?ゴキブリみたいだね。」

チェルシー「だれが～呼んだとかね。」

森の起伏は激しくなり～。だんだん上りになってきま

す。

9月30日

天気 曇り

森をぬけて、当たりの視界が開けてきます。

山脈と山脈の合間の谷間入っていきます。

もちもくと進んでいく一行。

チェルシー「もう9月も終わりですよ。」

他のメンバーは、言葉も少なくもくもくと歩く。

徒歩っていうのは、仕方がないのですが...

10月2日 天気 曇り

谷間の巨石が散乱する岩場をもくもくと進んでいく一行。

その地峡の出口には、隣国の町が高いところに登れば見えるところまでできています。

10月3日

夕方には、ベステの町になんとか、到着します。

トーエン「やれやれ～食料がなくなる前につけてよかったねえ～。」

と宿屋をみつけて落ち着く。

トーエン「こっちのほうは、不作とかないの?店主?」

店主 「いえ～特には、ございませんが～。」

店主のことなんぞは～おかまいなしに、勝炭にテーブル

について、くつろぎ一息入れようとする。

チェルシー「荷物ももう置いちゃったし〜。」

ぼーっと立っているエリー(メイド衣装です。)

トーエン「そんな格好をしているから〜エリーは『注文は?』なんて聞かれるンだよ〜。あつははははは。」

エリー「あんたの趣味でこの衣装に着替えたんでしょー。(.-")凸」

トーエン「明日は、中産階級の衣装だね。やっぱり〜町中は、そのほうが〜いいよ。」

エリー「私は、着せ替え人形じゃ〜ないんですけど〜。(T-T)」

トーエン「対して危険もなかったね。」

チェルシー「ことごとく危険を回避してきましたし〜。」

レッシュ「正攻法でいくと、もちません。だめです。」

居酒屋のテーブルによそ者がやってきたと聞きつけて、いろいろと人が集まってきます。

レッシュ「向こうにはいかないのですか?」

住民「そりゃ〜山向こうには、まったく用がないからね。」

チェルシー(絶句)

住民「そりゃ〜狩りとか、野草の採取とかやっていたけど〜。オーク鬼がでると聞いてからは、だれも行かなくなってるね。」

レッシュ 「前から出沒していたのですか？」

住民 「それは～以前からそれなりに出沒って噂はあったがね。」

住人 「ま～我等の財産を害することは、今のところ取り立ててないので～放置って状況かな。」

悪鬼の話を必死にするチェルシー。

しかし～住民は興味本位で聞いているだけで～まったくの他人事です。

チェルシー「この人に仇なす、悪鬼のことを調べたいのですが～。詳しい人は、ご存知ないですか？」

レッシュ 「この近くに詳しい人が住んでいるとか～。」

チェルシー「やはり～トロンヘムまで～いかないと無理？とか～。」

住民 「ま～近くとなるとゲルスか？貨実船で天気化よければ～2日で行けるはずだが～。」

トーエン 「しかし～あんなにオーク鬼がいると～危なくてしょうがないでしょ～。」

住民 「はて？なんのことやら～さっぱり要領が飲み込めませんが～。」

住人 「我等には、ちゃんとした防衛隊もいるし～。」

鍋をかぶった農民がモップやら～鎌を担いで整列している。緊張感なしなしである。

トーエン 「いやいや～オーク鬼って200匹はいましたよー。」

住民 「我等の不安をいたずらに煽っておるのか？」

住人 「いやいや～こっちには～こないって～。」

トーエン 「今はこないと思っても～いきなり明日には、突然 襲来するかも～。」

チェルシー「災害は突然 忘れたころにやってくる。」

レッシュ 「オーク鬼は一匹いると～30匹いると思えっ！」

住民 「そんなの真っ赤に燃え上がる火の玉攻撃呪文で一撃だって～。」

住民の笑い声！

トーエン 「そうなんですけどねえ～。」

エリー 「売なる平和惚け。敵をすでになめきってます。だめだめじゃん。」

住人 「この町は、偉大な魔法使いがいらっしやるので～。安泰だよ。」

住民の笑い声が響く！

エリー 「どこにいるのよ？」

レッシュ 「その魔法使い様を是非 紹介してください。  
(・\_・)」

と散々ダダをこねると若い「ファラカン」という魔法使



いが住民に呼ばれてでできます。さらに駆け出しの見習い魔法使いが大勢。

エリー 「集団魔法で威力倍増って奴?ってことは～そんなに高名な魔法使いでは、まったくなくてってこと?」

トーエン 「今すぐに退治してほしいってわけじゃ～ないんでえ～。」

住人 「え～ちがうの?」

レッシュ 「こういう悪鬼をご存知ありませんか?」

ファラカン 「わかんねえ～。」

チェルシー 「そういう者を調査するっておもしろいと思いませんか?」

ファラカン 「好き好んで～火中の栗を拾うやうなことはしないよ～。めんどくさ～。」

エリー 「売なるガキじゃん。」

チェルシー 「じゃ～そういう調べるのが大好きな人を紹介してください。」

ファラカン 「そんな暇な奴こんな～田舎の町にいないよお～。」

トーエン 「やっぱり!」

エリー 「売なる平和ボケ!緊張感なしなしい～。」

ファラカン 「血気さかんな～冒険者はやはり隣国のフレロまで～いかないといけないし。」

トーエン 「ゲルス?」

ファラカン「ゲルスに行っても～生ぐさ坊主しかいないし～。トロンヘムまで～行けば、魔法使いは大勢いる。」

エリー 「こいつには、話をしてもムダなことねえ～。」

ファラカン「とりあえず～今現在～ここいらは、何も問題がないし～。余計なことは、したくないって～ことだ。」

エリー (-.-")凸

トーエン 「束の間の平和を楽しんでください。」

住人 (´-´)■ レツドカード

エリー 「オーク鬼があんなにいるのに～不安ではないのですか?」

トーエン 「オーク鬼を倒すことが、我等の目的ではないしねえ～。」

ファラカン「文献を探すのであれば～やはり～トロンヘムの魔術師組合の図書館でしょ～。」

エリー ギュルギュル～腹がなる。

チェルシー 装備と所持金のチェックをして、真っ青になる。

チェルシー「折角ここまで～きたんだし～。なにかを持って帰らないと～。」

頭を抱える冒険者。

チェルシー「とりあえず～宗教都市ゲルスに行って調べ

物をして～だめだったら～トロンヘムに向かうってどう？」

レッシュ「ゲルスから～トロンヘムに向かうってどのくらいかかるの？」

住人「駅馬車で5日ぐらいかな。」

トーエン「そんなにかわらんじゃん。じゃ～ゲルスに向かってgo！」

チェルシー「とりあえず～食事して～。ここに一泊しよう。」

エリー「疲れたあ～。(T-T)」

かなり疲労困憊です。

レッシュ「A定食を～。」

チェルシー「ここの名物を～。」

騒ぐだけ騒いで～食事を頼んで食事とのたまう。

ムシャムシャ パクパクパク～。ゴクゴク

この時期なのでソコソコ冷えてるファインピルスナーのビール。あきれ返る民衆は五月鬻式に散っていく。安くてボリュームのある料理をたらふく食べる。

チェルシー「そうそう食料も確保しなきゃ～。」

レッシュ「明日朝一番の船で移動だあ～。」

とりあえず～宿を見つけて、明日への算段をねる。

トーエン「四人で、金貨一枚でお願いしたい。それも～朝食つきで～。」

四人部屋をあてがわれ、転がり込む。。

翌朝 早めの朝食すませて～船着場でチケットを購入するために並ぶ。

「本日しけの為 定期便は欠航となりました。」

看板を見てつんのめる一行。

しかたなく～昼間っから酒場に転がり込む。

安酒をぐいぐいやる。

レッシュ 「この酒～絶品だあ～。(T-T)」

店主 (; ^ \_ ^ A

トーエン 「今までがまずかったただけだ～。(T-T)」

他の実 「その程度の酒で、なんで？」

(飲み放題の日本酒と紙パックの日本酒ぐらいの差のはずなのに～。それでも～原価は10倍以上違う。)

チェルシー 「向こうの國は、今大変なっだつてえ～。」

レッシュ 「まったく～酒の味がしなかったのだ。」

他の実 「酒の味がちゃんと～わかるのか？」

エリー 「所詮は、合成酒ですから～味がわかるわけがありません。(きっぱり)」

レッシュ 「なんでも～うまい。うますぎる～。(T-T)」

ムシャムシャ パクパクパク～。ゴクゴク

チェルシー 「ずーっところここにいっても～いいような感じがしてきた。」

店主 「そうりゃ～そうだろー。飯がうまい。物価が安い。」

他の実 「言うことなしだぜえ～。」

エリー 何も語らず。たべるのに忙しい。

店主 「君たちは、いったい何を食べてきたんだ? (; ^ \_ ^ A)」

レッシュ 「俺たちの國の話とか～聞かないか?」

店主 「そうそうなんでも～えらい飢饉で大変だあ～。という噂は、聞いたねえ～。」

チェルシー 「それは～どこからの情報なの?」

他の実 「魔術師協同組合の壁新聞に張ってあったねえ～。」

遅い朝食なのか? 朝から酔っぱらいの冒険者はそのまま、あちらこちらを聞いてまわる。昨日会った魔法使い「ファラカン」の居場所を探しあてる。

魔法使いファラカンの住まいに上がり込む冒険者。

挨拶なんぞは、軽くすませて

いきなり本題。

トーエン 「悪鬼に詳しい人をご存知ありませんか?」

レッシュ 「トロンヘムとか?」

ファラカン 「ま～詳しくは～魔術師協同組合に出向いて、聞いてください。」

トーエン 「組合で誰が～この廢の一件で詳しいとか? わかりませんか?」

ファラカン (絶句)

トーエン 「教授にも～バカな奴とか、頭のいい奴とか～高飛車な奴とか いろいろいるじゃ～あ

～りませんか?」

ファラカン「ま～教授には～とっても紹介状なんぞは、  
出せないの～で～。我が先輩のガルブレイス  
を紹介してあげよう。」

レッシュ「できれば～紹介状を一筆いただければと助  
かります。」

ファラカン「(;^\_^Aえ～……………何を書けばいい  
のだ。」

トーエン「『ガルブレイス殿この書状を持参した彼らは、  
悪鬼退治で苦勞している冒険者たちだ～。  
貴殿の知恵と人望をもって彼らに多少の便  
宜を計らっていただけいだらうか?』みたい  
な～ことを文章で書いてほしいのです  
よ。」

ファラカン「……………教えてください。みたいな～。」  
とまで書いてしまう。

エリー「あんたあ～ばか?」

バカさ加減に騒然となる冒険者。

レッシュ「『みたいな～。』はいらない!」

トーエン「なんだ～。なんだ～。その文章。少女がつ  
かうような～。文書は?何も考えていない  
じゃん。」

エリー「書けといたのは、トーエン。」

ファラカン「ごめんごめん」

と食パンでゴシゴシやっていると～羊革紙がまっくろになってしまいます。

ファラカン「真っ黒になってしまった～。(T-T)高い羊皮紙が～。」

チェルシー「その場合は、鋏で切ればいいのでは？」

ファラカン「高級な羊皮紙を切ることなんぞはできない。」

と魔法であつと言う間に間違い部分を消去してしまいます。目の前で呪文を唱えるファラカンをまじまじと見ている冒険者。

レッシュ「便利だあ～。」

エリー (・\_・)え？

トーエン「ガルブレイスは、トロンヘムにいるのかな？」

ファラカン「そうそう！魔術師協同組合のホールにいるよ。」

修正の終わった紹介状をポーチにしまい込むチェルシー。礼を述べて、その場から退出する。

宿屋に戻って、カードゲームでだらだら～っと時間を浪費している。

トーエン「おかしい～なんで～あそこを素通りできたんだろー。」

レッシュ ひたすら～爆笑。

トーエン「どんどんいくぞ～。」

翌朝 天気曇

早めの朝食すませて～船着場でチケットを購入するため  
に並ぶ。

「本日しけの為 定期便は欠航となりました。」  
の看板をしかたなく下ろそうとしている事務所の人。

チェルシー「出航するんですか？」

係員 「はい!無理して出航します。この程度の天候  
ですから～。」

トーエン「荒れそうだな。」

乗船して、この地を離れる冒険者。

見送りなんぞは、当然いない。

安い船なので～かなり揺れます。

さらに翌朝の早いうちにゲルス港に到着します。

上陸する冒険者。

周りは、巡礼者がちらほら歩いている。

土産物屋とか、巡礼者向けの宿屋があちらこちらに建っ  
ています。

レッシュ「この付近で、悪魔退治に詳しい神殿は、ど  
こでしょうか？」

巡礼者 「あのその山全部が神殿なんですけどー。」

チェルシー「悪魔退治に一番詳しい神殿は、どこでし  
ょうか？」



巡礼者 「そういうことは～神殿に入ってから～修道士に聞いてくださいよー。」

トーエン 「そりゃ～そうだ。」

とほてほてと神殿に向かっていく。

かなりの距離を歩いていく。

エリー 「弱音はきそー。」

道沿いにカフェやら食堂に宗教具の店が軒を連ねている。

神殿の前の広場には、僧兵がおり、冒険者の姿を見つけると駆け寄る

どどどどどどど

僧兵 「異教徒は、ここより先へ行くことは、まかりならぬ。」

トーエン 「我等は、悪魔払いを探しておる。」

僧兵 「(・\_・)え？」

トーエン 「悪魔を退治したいのです。」

僧兵 「しかし～この國の民では～ありませんよね。その格好では～。(；^\_^A」

トーエン 「似たり寄ったかつです。」

僧兵 「よく分からないのですが～。信心が足りないものは去ったほうがよろしいかと。」

一旦正攻法で真っ正面からいくのはまずいと考えて一旦後退。街道をそれて、人づてにレッシュの宗派に近そうな祠を探すことにする。

レッシュ 「戦の神の祠はどこに？」

住民 「今の国王は、戦いよりも平和とか他のことを好む故に寄進も少なくてねえ〜。」  
と案内されるも鄙びた祭壇のあるそんなに大きくもない  
神殿に案内される。

レッシュ 「元気がないぞお〜。貴様ら〜。」

チェルシー 「元気ですか〜。」

と叫んでみたものの返事はない。

暫くすると年老いた司祭が一人他対するためにでてきます。

司祭 「はてはて、いったいどうしましたかな？」

必死に今までの経緯を説明するレッシュ。

司祭 「同門のよしみでお助けしましょー。」

似顔絵を必死にカキカキする。

レッシュ 「こいつを退治したいのです。」

司祭 「絵が非常に難しいので解釈ができませんの  
〜。」

チェルシー (;^\_^A

レッシュ 「描き直しだ！」

再び、ちがう所にガタガタ言いながら描いている。

チェルシー 「足りない部分はちゃんとした〜説明を！」

必死に風貌を説明するレッシュ。

司祭 「戦わないといけないのですか？」

トーエン 「そうです。戦って撃退をしないとけない  
のです。」

司祭 「ならば～。ここよりも～フレロなどの血気盛んな人達のところに赴き!やる気のある人達を集めた方がいいのではありませんか?」

レッシュ 「しかし～今は敵の正体を調べて見極める方が先だ。奴は....」

チェルシー 「矢で射かけると逃げて行ったのですから～。」

司祭 「身の程知らずというか～。挑戦者というか～。ふつーしませんよ。」

レッシュ 「それは、神のご加護があつたからです。」

修道士のどよめきがおきる。

司祭 「それは～無謀といえます。」

司祭の与田話には、耳を貸さない修道士達

修道士 「この弱小の宗派で～よくぞ～。盛り上げてくれた～。」

みんなで詠唱を初める。異様に盛り上がっている。呆然とする司祭。トーエンは、レッシュの馬鹿話に、あきれて仕事を探しにブローカーを尋ねて、街道の商店をうろうろする。

トーエン 「トロンヘム行きの駅馬車で護衛を必要とする人なり商人はいませんかねえ～。」

ブローカー 「そりゃ～その程度の仕事なら～苦勞せずとも見つかるよ。」

ブローカーは仕事の世話をしてくれます。

トーエン「受けます。やります。すぐいきます。」

その話を聞いて、ガッツポーズしているチェルシー。

ブローカー「あんた誰?(;^\_^A」

チェルシー「いきましょー。いきましょー。すぐに準備  
しますから～1時間ください。」

ブローカー「(・\_・)っえ？」

一目散にその場から、神殿まで戻ってくる。

⇒続く

-登場人物-

トーエン

ファイター /カルコータ地方よりもさらに北方の出身

レッシュ

クレリック /商売繁盛・五穀豊穰の神を信仰

チェルシー

シーフ/バクトリア市内の貧民街出身

エリー

猫耳メイド/ファイター 辺境のカルコータ出身

-最後に-

本書はフィクションであり、架空のものです。

本書は、公開遊戯財団の示すライセンスやd20 システムに準拠します。

同じように楽しみたい場合、woc社の製品もしくは、国内において翻訳したものはHobbyJapan社から発売されている製品とプレイヤーと審判を確保できるならば、同じように楽しむことができます。地元書店 ブック宮丸などで発売されています。各種サイコロと紙と筆記用具もお忘れなく。

企画・制作

卓上冒険団 本営/ Publisher of “ The 16th inn ”

表紙イラスト 絵師：野田頭 雅之

掲載website

<http://ddlog.cocolog-nifty.com/>

三刷2011年4月14日

既刊

卓上冒険譚

-License<sup>16</sup>

---

<sup>1</sup> 読みにくい!と一蹴されましたが一改善はしているつもりです。

<sup>2</sup> D&Dの標準的な世界観ですので、指輪物語+ムアコック的な百万世界ですので、ドワーフ、エルフ、ノームが闊歩する世界です。当然、蛮族やオーク鬼、オーガなども住んでいます。

<sup>3</sup> キャンペーンの暦は、一応 標準歴としている。

<sup>4</sup> ご想像にお任せします。

<sup>5</sup> よく地ビールとかで、飲まれる淡い銘柄です。当然、冷蔵庫はありません。ぬるいビールやらエールをがんがん飲んでいるわけです。

<sup>6</sup> 貨幣通過単位は、金が基本である。

<sup>7</sup> 野蛮人が毛皮を着ているのがふつーってのもかなりの偏見だと思います。

<sup>8</sup> ドワーフ族には、離れ山の一族 (山ドワーフ族) 山の下の一族 (山ドワーフ族)、山の上の一族 (丘ドワーフ族)、などがいます。

<sup>9</sup> USAと叫んでいないだけマシという話もある。

<sup>10</sup> 時代設定を考慮したプレイヤー発言をお願いします。

<sup>11</sup> カスタマーフォーカスってやつです。

<sup>12</sup> 護衛なのか?山賊なのか?いま一つ 差がない時代です。

<sup>13</sup> 欧州や大陸って設定ではない。ゆえに水より酒が安いという設定にはしていない。そこそこ降水量がある島というこ

---

とにしている。

<sup>14</sup>今年不作だったことについて、お酒で影響がでてくるのは、来年以後である。この時点でもうすでに～原酒の出荷統制を大幅に実施しているということである。

<sup>15</sup> ホッピーに焼酎を混ぜるような話です。

## <sup>16</sup> Open Game Licenses

The Open Gaming Foundation believes that a license must provide for two important features in order to be an Open Game license.

1. The license must allow game rules and materials that use game rules to be freely copied, modified and distributed.

2. The license must ensure that material distributed using the license cannot have those permissions restricted in the future.

The first requirement precludes an Open Gaming License from placing any limitation on the licensed content beyond those necessary to enforce the terms of the license itself. This prohibition includes a restriction against commercial distribution, a requirement for review or approval, the payment of a fee of any kind to a 3rd party, or any other term that would seek to limit the free use of the licensed material.

The second requirement means that the license must have a mechanism to ensure that the rights it grants

---

cannot be taken away, either by the original contributor of the material, of the copyright holder of the license text itself, by an action taken on behalf of a 3rd party, or any other process.

The Open Gaming Foundation is aware of several licenses which it believes meet these requirements.

The Foundation makes no representation or warranty as to the fitness or actual terms of any of these licenses. The following list of licenses is provided as a convenience and should not be taken as a formal endorsement of the terms of any of these licenses.

If you are aware of any additional licenses that should qualify for this list, or if you have concerns about any of these listed licenses, please let the Foundation know.

Known Open Gaming Licenses:

The Open Gaming License drafted by Wizards of the Coast

The Dominion Rules License drafted by Dominion Games

The GNU General Public License, and the Free Documentation License drafted by the Free Software Foundation

The Open Content License by OpenContent qualifies as long as neither of the License Options in Section VI of the license are used.

The October Open Game License by the RPG Library



---

## Open Game License Text

THIS LICENSE IS APPROVED FOR GENERAL USE. PERMISSION TO DISTRIBUTE THIS LICENSE IS MADE BY WIZARDS OF THE COAST!

### OPEN GAME LICENSE Version 1.0a

The following text is the property of Wizards of the Coast, Inc. and is Copyright 2000 Wizards of the Coast, Inc ("Wizards"). All Rights Reserved.

1. Definitions: (a)"Contributors" means the copyright and/or trademark owners who have contributed Open Game Content; (b)"Derivative Material" means copyrighted material including derivative works and translations (including into other computer languages), potation, modification, correction, addition, extension, upgrade, improvement, compilation, abridgment or other form in which an existing work may be recast, transformed or adapted; (c) "Distribute" means to reproduce, license, rent, lease, sell, broadcast, publicly display, transmit or otherwise distribute; (d)"Open Game Content" means the game mechanic and includes the methods, procedures, processes and routines to the extent such content does not embody the Product Identity and is an enhancement over the prior art and any additional content clearly identified as Open Game Content by the Contributor, and means any work covered by this

---

License, including translations and derivative works under copyright law, but specifically excludes Product Identity. (e) "Product Identity" means product and product line names, logos and identifying marks including trade dress; artifacts; creatures characters; stories, storylines, plots, thematic elements, dialogue, incidents, language, artwork, symbols, designs, depictions, likenesses, formats, poses, concepts, themes and graphic, photographic and other visual or audio representations; names and descriptions of characters, spells, enchantments, personalities, teams, personas, likenesses and special abilities; places, locations, environments, creatures, equipment, magical or supernatural abilities or effects, logos, symbols, or graphic designs; and any other trademark or registered trademark clearly identified as Product identity by the owner of the Product Identity, and which specifically excludes the Open Game Content; (f) "Trademark" means the logos, names, mark, sign, motto, designs that are used by a Contributor to identify itself or its products or the associated products contributed to the Open Game License by the Contributor (g) "Use", "Used" or "Using" means to use, Distribute, copy, edit, format, modify, translate and otherwise create Derivative Material of Open Game Content. (h) "You" or "Your" means the licensee in terms of this agreement.

---

2. The License: This License applies to any Open Game Content that contains a notice indicating that the Open Game Content may only be Used under and in terms of this License. You must affix such a notice to any Open Game Content that you Use. No terms may be added to or subtracted from this License except as described by the License itself. No other terms or conditions may be applied to any Open Game Content distributed using this License.

3. Offer and Acceptance: By Using the Open Game Content You indicate Your acceptance of the terms of this License.

4. Grant and Consideration: In consideration for agreeing to use this License, the Contributors grant You a perpetual, worldwide, royalty-free, non-exclusive license with the exact terms of this License to Use, the Open Game Content.

5. Representation of Authority to Contribute: If You are contributing original material as Open Game Content, You represent that Your Contributions are Your original creation and/or You have sufficient rights to grant the rights conveyed by this License.

6. Notice of License Copyright: You must update the COPYRIGHT NOTICE portion of this License to include the exact text of the COPYRIGHT NOTICE of any Open Game Content You are copying, modifying or distributing, and You must add the title, the

---

copyright date, and the copyright holder's name to the COPYRIGHT NOTICE of any original Open Game Content you Distribute.

7. Use of Product Identity: You agree not to Use any Product Identity, including as an indication as to compatibility, except as expressly licensed in another, independent Agreement with the owner of each element of that Product Identity. You agree not to indicate compatibility or co-adaptability with any Trademark or Registered Trademark in conjunction with a work containing Open Game Content except as expressly licensed in another, independent Agreement with the owner of such Trademark or Registered Trademark. The use of any Product Identity in Open Game Content does not constitute a challenge to the ownership of that Product Identity. The owner of any Product Identity used in Open Game Content shall retain all rights, title and interest in and to that Product Identity.

8. Identification: If you distribute Open Game Content You must clearly indicate which portions of the work that you are distributing are Open Game Content.

9. Updating the License: Wizards or its designated Agents may publish updated versions of this License. You may use any authorized version of this License to copy, modify and distribute any Open Game Content originally distributed under any version of this

---

License.

10 Copy of this License: You MUST include a copy of this License with every copy of the Open Game Content You Distribute.

11. Use of Contributor Credits: You may not market or advertise the Open Game Content using the name of any Contributor unless You have written permission from the Contributor to do so.

12 Inability to Comply: If it is impossible for You to comply with any of the terms of this License with respect to some or all of the Open Game Content due to statute, judicial order, or governmental regulation then You may not Use any Open Game Material so affected.

13 Termination: This License will terminate automatically if You fail to comply with all terms herein and fail to cure such breach within 30 days of becoming aware of the breach. All sublicenses shall survive the termination of this License.

14 Reformation: If any provision of this License is held to be unenforceable, such provision shall be reformed only to the extent necessary to make it enforceable.

15 COPYRIGHT NOTICE

Open Game License v 1.0 Copyright 2000, Wizards of the Coast, Inc.